ACTIVE

プラントエンジニア別冊

2024年度
自主保全士検定成績優秀者
表彰式記念冊子

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

自主保全士成績優秀者へのメッセージ

資格取得は次なるステージへの第一歩。自主保全のチカラで現場を変革。

先頃名古屋で開催された、自主保全士検定成績優秀者の表彰式では、
自主保全士成績優秀者および団体表彰を受けた企業に対し、
公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の河合満会長より
「これからの製造現場に自主保全士へ期待すること」と題したメッセージが贈られた。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 会長
トヨタ自動車株式会社 Executive Fellow
河合 満

自主保全士成績優秀者の皆さん、優秀企業として表彰された皆さん、本日は本当におめでとうございます。ようやくコロナは一段落しましたが、現在はインフルエンザが蔓延したり、また国際情勢をはじめとして、日本国内においても混沌とした状況が続いています。そうした状況下において、皆さんがこういった検定試験に取り組まれた姿勢や努力に対して敬意を表します。試験に取り組む姿勢を見て、また自信をもって学んだことを行動で示している様子を見て、「ああいう先輩になりたい」「あんな人になろう」と部下や後輩たちは尊敬の念をもって、皆さんを追いかけてくることになろうかと思います。

私自身も現場一筋でやってきて、保全活動の大切さを痛いほど経験してきました。故障が発生してからの事後修繕では手遅れです。その時間は取り戻せませんし、その帳尻を合わせるべく残業することになり、いつまでたってもお客様に品物が

渡せないという状況にも陥ります。

こうした事態を起こさないためにも、常日頃から第一線でモノづくりに携わり、設備や状況をよく知る人物が状態を見極めながら設備に向き合うこと、正しく予防保全を行うことがもっとも大事であり、それを担うのが皆さんなのです。

徹底した自主保全こそが カーボンニュートラルの鍵

現在、自動車産業のみならず、すべての業界や業種で盛んに言われているのがカーボンニュートラルです。皆さんの近くでもカーボンニュートラルに対応した設備を導入しているところもあろうかと思います。ただ違和感があるのは、「カーボンニュートラル実現のためにはお金を投じて新設備の導入が必要だ」という発想になること。いくら良い設備を購入しても、メンテナンスなしに、製品を安定して生産することはできません。

忘れてはいけないのは、不良品を出して、なおかつ「二酸化炭素を排出しながら、買った材料と労働をムダに使い、さらにエネルギーを使って処分する」こと。この行為こそ、カーボンニュートラルに逆行しているわけです。皆さんが扱っている設備一つずつを丁寧に自主保全することで故障を一つずつ減らす。油一滴でもロスです。徹底的にきれいにして、素早く不具合を発見し、そして品質を安定させる。設備だけに頼るのではなく、保全を基本とする考え方こそ、カーボンニュートラルの本質ではないかと私は考えています。

もう一つの問題点として挙げられるのが労働者不足。これに対応すべく、多くの会社が積極的に自働化を進めていますが、自働化を進めることだけが正解ではないとも考えています。

私はいつも「自働化とはスリム、シンプル、フレキシブル」と言っています。メンテナンスの効果を発揮するのは、こうした構造です。当会ではからくりを使っての改善を推奨しています。各社のアイデアを集めた「からくり改善くふう展」なども開催していますが、そこで発表される作品はすべて“スリムでシンプルでフレキシブル”です。そして自分たちでつくったものですから、自分たちで修理できますし、他部署へ展開することも、仕様を進化させていくことも可能です。そうした発想の先にあるのが自働化であり、こうした設備なら「メンテナンスは現場でやります！」と宣言できますし、保全部門の保全員も不要のラインをつくることができます。そんな理想の実現にぜひ挑戦してもらいたいです。またこうした視点をもってDXを導入できれば、その真価も発揮できます。

こうした現場で、皆さんのように優れた目と腕、高い知識を持っている人が保全を司ることが大切です。いろんな知恵や知識をもって問題意識を持った人たちこそ、先頭を切って実践してもらい、多くの人の見本になってもらいたいです。

資格に合格したことは、ゴールではなく新しいスタートです。皆さんのこれからのご活躍を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。改めて、本日はおめでとうございました。

河合 満

1948年生まれ。1966年、トヨタ技能者養成所を卒業し、トヨタ自動車工業株式会社に入社。本社工場鍛造部長、本社工場副工場長、技監を経て、2015年専務役員に就任。2017年より副社長に就任し、現在はExecutive Fellowを務める。2016年6月より公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会副会長、2022年6月より会長に就任。

自主保全士成績優秀者へのメッセージ

年間受験者数1万5000人を突破。成績優秀者の自己研鑽を讃えて。

資格認定委員会の宮脇克典委員長は「設備に強いオペレーター育成」の重要性を強調し、さらなる活躍へ向けて壇上から成績優秀者を激励した。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 資格認定委員会　委員長
マツダ株式会社　執行役員

宮脇 克典

※本誌掲載の所属・役職は2025年3月時点のものです。以下同

本日は「自主保全士優秀者表彰式」にご参加いただき、誠にありがとうございます。この式典は2024年度の「自主保全士検定試験」において、特に優秀な成績を収めた合格者の方々の功績を表彰するものであり、成績優秀者の皆さまには心からお祝い申し上げます。また式典にご出席の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、表彰式にお越しいただき、誠にありがとうございます。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会では、モノづくりやメンテナンスを通じて、産業界の発展に寄与するための「TPM」「からくり改善」「自主保全士」といった事業を展開しております。

中でも「自主保全士検定試験」は製造オペレーターに求められる知識や技能に、保全の機能や管理技術を加えた「設備に強いオペレーター」を育成することを目的として2001年に誕生、現在、幅広い業種の方々にご利用いただいています。

今年度で検定試験は24年目を迎えました。利用者数は累計約29万人、認定者は約15万人におよび、製造業界向けの試験として国内最大級の資格試験になりました。また2024年度の試験において、利用者が初めて1万5000人を超え、1万5100名となりました。この数字は保全技能を有する製造オペレーター育成の必要性を認識している企業の多さを示す重要な指標と考えております。また当会で実施しているメンテナンス実態調査や国の調査でも、製造業における保全分野の関心は年々高まっており、「自主保全士」にかかる期待が大きくなっています。そんな中で、優秀者の皆さまのさらなる活躍を期待するところでございます。

今回獲得された知識をそれぞれの職場において存分に発揮し、日々の業務の中で応用力を身につけながら、自己研鑽を積み重ねていただきたいと思います。今回、授与される「自主保全士検定試験」の成績優秀者表彰が、今後の皆さまのご活躍を陰ながら支えるものとして、そしてまた所属企業の上司、同僚、部下の方々にアピールできるものとなりますよう大いに期待しております。

今後も当会では、最前線を担う皆さまの技能、技術、知識の向上のため、またそれをアピールできる場をご提供するために、役員一同、成長支援のための環境づくりに注力してまいります。

改めまして表彰をお受けになる成績優秀者と各企業の皆さまに心よりお祝いを申しあげます。

※掲載は企業名、個人名の50音順です。以下同

グローバル生産推進センター
保全マネジメント・支援室 主幹
石原 修さん

高岡工場車体部 次長
中山 等さん

高岡工場車体部第1ボデー課 組長
半野田 和幸さん

上郷工場・下山工場
製造支援部第2支援課 TL
山田 雄介さん

トヨタ自動車株式会社

自信を持って設備を視て 自らの知識で設備を守る。

2023年から自主保全士の資格取得を強く推進するトヨタ自動車。2年連続で過去最高を達成した「自主保全士育成の取り組み」とは。

2023年3月、トヨタ自動車の技能系のトップである河合満氏は、「設備に強いオペレーター育成の必要性」を社員に説いた。これを受けてトヨタ自動車では自主保全士資格取得に本腰を入れた。同社は生産工場10工場のほか、生産技術、技術部／研究所でも自主保全活動を展開していたが、各所をチェックしたところ「2016年をピークに年々、受験者数が減少していました。また拠点別で見ても受験者数のバラつきが大きく、特に車両工場で自主保全の根付きが弱いという状況でした」と石原修氏は説明する。

この課題に対し、トヨタ技能者養成所とタイアップ。ショップリーダー会議を活用し、受験の促進を依頼したという。さらに1級・2級の資格を持ち、かつ両者の成績優秀者でもある山田雄介氏にテキスト作成を依頼し、学習へのバックアップ体制も整備。これらの取り組みにより、2023年、2024年と2年連続で受験者数・合格者数ともに過去最高を更新する成果を上げている。

特に顕著な成果を挙げたのが高岡工場車体部だ。総勢1,500名の組織で、2022年まで低迷していた資格取得者数は2023年から急増。現在は在籍者の取得率34%に達している。中山等氏は「設備の老朽化、自働化設備の導入、また電池工場立ち上げが進む中、慢性的な保全員不足と保全員の育成期間の長さが課題でした。一方の製造メンバーは設備に手を出しづらいという意識が強く、領域拡大が急務だったのです」と話す。受験者増加へ向け、最初に行ったのが部の朝会での河合氏の“思い”を伝えること。さらに各課に自主保全士コーナーを設け、全社・工場・部門別のエントリー状況を週1回共有した。特に上長らが率先して受験したことは、部内への良き影響となった。

「全社トップの受験者数で、合格率も70%超という結果でした。資格取得により自信を持つ姿に触発され、資格取得に続く者も増えました」とは中山氏の弁。

一方、現場では「まず、“なぜ自主保全が必要なのか”を丁寧に説明し、製造部のマインドを変えることからスタートしました」と半野田和幸氏は述べる。中山氏および昨年度合格者による講演会を開き、課内に熱い想いを伝えると共に、勉強法の説明会を定期的に開催するなど、やる気を喚起。2023年には現場の工長・組長・TLが、自主保全が進んでいる他社を訪問し、さまざまな学びを得ると同時に大いに刺激を受けたことで、目指す方向も明確になっていった。これを受けて保全課が行っていた点検項目の一部だったスポットガン点検、シャント板点検などの点検を自主保全項目へ取り込み、また自分たちで行った改善事例も増えている。2年間でドア工程設備停止件数の低減傾向もみられ、効果は明らかになったという。

日産自動車株式会社

栃木工場 工場長
五月女 峰行さん

設備の大幅な自動化に伴い、新たな自主保全の取り組みを実施。

設備の大幅な自動化に伴い、製造と保全が協働して自主保全活動を強化。新旧ラインでの製造の保全力向上を実現。

日産自動車栃木工場は、国内工場唯一、車輛とパワートレイン部品の両方の工場を持ち、車輛としてはGT-R、フェアレディZ、電気自動車ARIYAといった高級車・高性能車を生産している。2021年には、電気自動車ARIYAの生産開始とともに、同社で初めて「ニッサンインテリジェントファクトリー（NIF）」を導入し、最新鋭のラインとなった。

「日産においてTPM活動が盛んだったのは1990年代のこと。2000年以降、約20年間の停滞期を迎え、空白の時期になっていました」と五月女峰行氏は説明する。この状況を打破するため、2019年に「TPMの原点回帰」として活動を再開。以来、3年連続で自主保全士団体表彰を受賞するなど、着実に成果を挙げている。

栃木工場ではその自主保全活動にさらに力を入れる必要が生じた。それがNIFの導入である。

「NIFにより設備も大きく変化しました。中でも組立工程における自動機は大幅に増加し、それに伴い保全作業も増加しました」

スムーズな保全を実施するため、製造側も新たな設備について知らねばならない。そのために行ったのが製造と保全がペアになり、機械について学ぶ時間を設けること。週1回、30分～1時間、共同で点検をすることで、製造の自主保全領域を拡大。保全員が新設備の対応に集中できる体制をつくりあげた。

こうした時間を重ねることで、製造による自主保全活動が推進。組立ラインでは自動化により増加したビジョンカメラの汚れ対策を製造側が実施。また塗装工程では低温塗装技術導入に伴う新たな清掃方法を確立している。さらに鋳造工程では、過去に発生した小火を教訓に、週末15分の全員清掃を実施することで、2024年は小火ゼロを達成している。

これらの取り組みにより、組立ラインの稼働率は着実に向上。鋳造工程も前年比で明らかな改善を見せているが、課題はまだ残る。

「部門や工程で自主保全のレベルに差があり、工場全体での取り組みの均一化が今後の課題です」

地道な活動だけにモチベーション維持も課題の一つだが、「成功事例を積極的に共有、評価し、サポート側が熱意を持って継続的に活動を推進していきたい」と五月女氏は締めくくった。

2024年度 自主保全士検定試験
成績優秀者表彰式を開催。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会は、製造現場での自主保全を推進させる目的で、20年以上にわたり自主保全活動に取り組み、「自主保全士検定試験１級・２級」を実施しています。さらに同検定試験合格者の中から成績優秀者を表彰。先頃、表彰式と講演会を名古屋で開催しました。その模様をご紹介します。

メダルを掲げるのは「自主保全士検定試験1級」に合格され、成績優秀者として表彰された皆さん。前列はプレゼンターとして出席した、公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の河合満会長、同協会資格認定委員会の宮脇克典委員長、同委員会の松田義博副委員長、鈴置智専務理事。

昨年に引き続き、表彰式は名古屋市のANAクラウンプラザ ホテルグランコート名古屋で開催。

1級
受賞者

2024年度の1級成績優秀者は22名。うち19名がこの日の表彰式に参列。

製造現場のオペレーターは自主保全の知識、技能を習得することで、迅速な異常の発見や修理・改善ができるようになり、重大な故障を未然に防ぐことができるようになります。公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会では、2001年から「自主保全士検定試験」を実施。今日、国内の製造現場には23万人を超える自主保全士認定者（検定試験・通信教育・オンライン試験）が輩出されています。

2024年度は1級合格者が2,188名、2級合格者が5,220名となりましたが、その中でも1級から22名、2級から45名が成績優秀者として認定され、先頃、名古屋市のホテルで表彰式と講演会が催されました。壇上に一人ずつ立ち、表彰状と記念メダルが授与され、加えて団体表彰された企業からの自主保全の取り組みにまつわる講演も行われました。その後はホテルの最上階に用意された懇親会会場へ。

2025年も10月に「自主保全士検定試験」を実施します。設備に強いオペレーターの新たな誕生に期待します。

2級
受賞者

表彰式では、成績優秀者が一人ひとり壇上で名を呼ばれ、表彰状を手渡された。

2級
受賞者

2024年度の2級成績優秀者は45名。うち32名がこの日の表彰式に参列。

2級
受賞者

団体表彰

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会では、個人の成績優秀者表彰と並んで、自主保全活動に目覚ましい成果を上げた企業に対しても、団体表彰をしています。2024年度の団体表彰は、4つの企業が表彰されました。50音順に、株式会社SUMCO、トヨタ自動車株式会社、トヨタ紡織株式会社、日産自動車株式会社の4社です。一社ずつ壇上に登り、公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の鈴置智専務理事より記念の盾を手渡されました。トヨタ自動車と日産自動車の2社からは、取り組み事例の講演もありました。

株式会社SUMCO

トヨタ自動車株式会社

トヨタ紡織株式会社

日産自動車株式会社

懇親会は自主保全の貴重な情報交換の場に

表彰式、講演会に続いては、会場をホテルの最上階「クリスタルルーム」に移し、懇親会が行われました。公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の役員と成績優秀者の皆さんとの記念撮影が続き、その傍らでは成績優秀者の方々の交流も盛んに。自主保全にまつわる貴重な情報交換の場ともなり、広い会場いっぱいに、話に花が咲きました。

自主保全士成績優秀者　インタビュー

検定試験の成績優秀者4名の方から、自主保全士としての心構え、試験に向けての過程、表彰されたことへの思いを伺いました。そこには自主保全に対する高い意識が感じられました。

2級 受賞者

玉野化成株式会社
山脇 望恵さん

資格取得をきっかけに他部署との連携が密に。

玉野化成は自動車用ウォッシャーノズルで国内シェア70％を誇る、プラスチック成形技術のトップメーカーだ。同社の製造２部検査課に所属する山脇望恵さんは、勤続23年のベテランであり、現在は班長として生産進捗管理、生産計画の立案を行っている。彼女が保全士検定試験に挑戦したきっかけは、2年前の班長への異動だった。

「製造２部では半自動機と自動機を合わせて196台が稼働しています。就任当時はトラブルが頻発してスケジュールどおりに進まないこともあり、納期の調整に頭を悩ませていました。そんなとき『自分でできることはないか』と考えるようになりました」

保全員がどのように機械をメンテナンスしているか説明を受けたところ、「多少なりとも自分が関与できる作業はありそう」と感じ、すぐに上司に相談。そして自主保全士の資格取得を目指すことになった。

その後、月1回の社内勉強会に参加すると共に、保全員から、設備について直接指導を受けた。

「部品がどこに使われてどう動くのかが分からない。そこで専門家である保全員に教えを請いました。時には機械の下に入って、具体的な動作を見たこともありました」

資格取得後の仕事への関わり方は大きく変わった。

「共通言語を持ったことで、各部署との話がスムーズになりましたね。また設備の大切さと保全の技能を学んだことで、設備の新規立ち上げの際も自分の意見を生産技術に伝えやすくなり、治具などについてもメンテナンスの観点から改善を提案できるようになりました」

同社は2024年度の試験に女性社員6人が挑戦し、5人が合格。

「当社の自主保全士への取り組みはスタートしたばかりですが、自主保全について知るほど、製造現場に必須の資格だと感じます。現場の人たちが全員持っていたら、確実に製造は変わります」と力を込める。

次は自主保全士1級を目指すという山脇さん。彼女の挑戦は製造現場に新たな可能性を生むことになりそうだ。

1級 受賞者

株式会社トクヤマ
森中 康介さん

検定への取り組みは確実に実利に結びついた。

トクヤマの製造品目は多彩だ。電子先端材料、ライフサイエンス、環境事業、化成品、セメントなど多岐にわたる。その中でも森中さんが所属する半導体用高純度多結晶シリコン（以下、シリコン）の製造は中核事業だ。森中さんは同社に転職して、1年半になる。前職は鉄鋼大手。新卒から設備保全一筋だった。6年ほど勤めて、製造の仕事にも興味がわき、縁あってトクヤマへ。

「シリコン製造の現場はまさしく未知の領域でした。製造部門といってもラインで組み立てを行うわけではありません。主な業務はプラントのパトロールです。24時間3交替制で、すべての計器の数値が正常範囲にあるのか監視していきます。シリコンのプラントには熱交換器などがとても多いのですが、自分たちでできる範囲の保全は製造が担います。前職の企業と比べると、トクヤマには自主保全を推進する社風が根づいていると感じます。なので、前職で保全員を経験していたことは非常に役立っています」

自主保全を展開させる上で、会社としても自主保全士検定の資格取得を後押しする。

「社内で検定試験の案内があり、自分としてもキャリアアップのために興味を覚えまして、検定の勉強を始めました。毎夜、妻と子供が寝てから、一人で暗い中、公式テキストを読み込みました。当初、自主保全とはバルブ交換くらいのことかと思っていました。しかし学ぶにつれ、5Sはもちろん、TPMや設備の構造自体を理解した上で設備管理部門と連携した保全を習得することの重要性を理解しました。自主保全の考えでプラントに向き合うと、より早く異常が発見できると気づき、検定の勉強は確実に実利に結びつきました。そしてどうせ受けるなら、と最初から1級を狙いました」

試験終了後には確かな手応えを感じたという森中さん。1級に合格するだけでなく、見事、成績優秀者に選ばれた。

「職場で回覧している運転日誌に、自主保全による外注費用削減の事例が記載されているのを見て、自分も自主保全に限らず、設備の改良なども提案していきたいという気持ちを強くしました」

1級 受賞者

トヨタ自動車株式会社
石原 修さん

保全の管理者として改めて自主保全の進展を提唱。

1年前は同じ会場で、自主保全士検定試験2級の成績優秀者に選ばれ、2024年度表彰のこの日は、同1級の成績優秀者として、2年連続の表彰。さらに同日は企業の代表として団体表彰にも選ばれ、企業の取り組み事例講演の壇上に立つ。石原さんはまさしくベテラン技術員だ。

新卒入社し、最初は上郷工場で保全部署の技術員として配属。その後、製造技術員としてエンジン製造ラインの改善や新規立ち上げを担当。2012年からは4年間、中国天津のエンジン工場で製造部部長に就く。帰国後はトヨタ自動車元町工場のグローバル生産推進センターに異動。現在は主幹として、これまで培った保全スキルと経験を活かし、主に同社国内各工場製造部門の保全に関する情報把握と展開、管理を担当している。自主保全士検定に関しては、会社側に立って社内に推進する立場だ。

「資格取得を勧める当の本人がまず資格をとるべきだと考え、受験するに至りました。また役目上、検定の内容を詳しく把握する必要もありました。勉強を始めて気づいたことですが、トヨタ生産方式（TPS）とTPMには相違点もあり、検定に臨むことで、モノづくりに関する視野が広がりました。私はトヨタグループをはじめ社外の方々との接点も多いのですが、トヨタの中でしか通用しない用語や考え方もあり、一方ではこれまで私自身はあまり使っていなかったTBMやCBMといった用語や、設備総合効率などといった考え方を習得できたことは、社外の方々とのコミュニケーションにおいてもとても有意義だったと思います」

検定受験したことで、保全管理者に求められる能力や解析方法を体系的に学べた。今後はより自信をもって、自主保全士の資格取得を勧めていきたいと石原さんは語る。

「トヨタでは車両工場とエンジンなど部品を生産するユニット工場に大別されます。ユニット工場では“三本柱活動”というものがあり、その一つの柱が自主保全で、活動が浸透しているのですが、車両工場では自主保全が十分に浸透していない職場がまだ多い状況です。しかし今日では、自働化やEVなど新しい技術やシステムを安定して稼動させるために保全の重要性が増しており、専門保全はより高度な知識と技術への対応が必要となります。そのためにも日頃から設備の状況を把握し、自主保全を推進できるオペレーターの充実、これが全社的に急務であると、その活動推進を提唱しています」

1級 受賞者

株式会社豊田自動織機
髙橋 加那子さん

保全の知識は業務の基礎力。製造現場を超え広がる価値。

豊田自動織機の製造部企画グループに所属する髙橋加那子さんは、現場作業者の支援業務や人材育成、ＩＴ推進スタッフとして新人作業者の受け入れ教育や自主保全の推進・運営を担当している。キャリアを聞く限り、自主保全士の業務とは少し離れるとも感じるが「他者へ取得を推進する立場にあるからこそ、内容を正しく理解して、説得力のある説明がしたいと思いました」と取得の経緯を語る。

取得を目指したことにはもう一つ理由があった。昨年、同僚が検定に合格したことだ。仕事へ向かう姿勢の変化や自信をもって業務に当たっている様子を見て、影響を受けたという。

しかし６歳の子育て中での勉強は容易ではなく、「子どもが寝た後に1日1～2時間、時間を取れれば良い方でした」と語る。とはいえ「配偶者も製造業に勤めていて理解があったので、寝かしつけを頼んだり、世話をお願いしたり。そうした家族の協力があってこその合格でした」と、笑顔で振り返る。

資格取得後は清掃や点検の意識が強まり、職場での“モノの見え方”が大きく変わった。最大の変化が自分の机周りで「整理整頓が進み、必要な資料や道具がすぐに取り出せるようになり、仕事がしやすくなりました」と言葉を続ける。また「からくり製作の図面を見る時など、自主保全で学んだ知識が役立つことが多くなりました」と実務での効果も実感している。

現在は後進育成のために、自主保全の合格率を上げるための取り組みを考えている。

「自主保全士検定は、特に製造や改善業務に携わる人には役立つ資格です。自主保全の原理・原則を学ぶことで、あらゆる業務に活きる知識がつきますし、身につけた知恵は無駄をなくす考え方につながります」と髙橋さん。知識が単なる知識で終わらず、現場の安全確保や業務効率化に直結する点が、この資格の最大の価値、と話を結んだ。

自主保全の有益性を知ったからこそ、新しい資格への挑戦も視野に、さらなるスキルアップを目指している。

2024年度

自主保全士成績優秀者の皆さまより喜びの声をいただきました。

※企業名、および氏名を縦列で50音順に掲載

2級

株式会社アイシン

川口 幹央 さん

職場の自主保全活動へ積極的に取り組みたいと考え、勉強を進めました。無事に合格することができて嬉しく思います。またアドバイスや協力をしていただいた上司、同僚への感謝の気持ちでいっぱいです。今回学んだ知識を日々の業務や活動に活かし、「自分の設備は自分で守る」をモットーに、より良い職場づくりに努めます。

2級

愛知機械工業株式会社

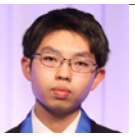
田川 賀文 さん

無事合格することができ、嬉しく思います。社内で勉強会の時間をとっていただき、しっかり自主保全について学ぶことができました。検定で良い点がとれたのも講師の方の熱心なご指導のおかげだと思います。自主保全について学習したことで、設備の不具合に対して対応できることが増え、作業がしやすくなりました。今回学んだノウハウを活かし、職場の仲間とも意見を出し合いながら、より良い作業環境づくりを行っていきます。

2級

愛知製鋼株式会社

黒地 天翔 さん



成績優秀者として表彰されると知り驚きましたが、大変嬉しく思います。私は保全部門へ配属されますが、今回の自主保全士資格取得を通して学んだＴＢＭ、ＣＢＭ及び改善の４原則であるＥＣＲＳなどの考え方はとても勉強になりました。配属後には、今回得た知識を活用し、良き保全マンとなれるよう日々研鑽を重ねてまいります。

2級

株式会社アライドマテリアル

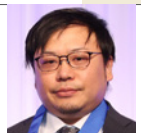
丹羽 さくら さん

成績優秀者に選出していただき、光栄に思います。勉強を進める中で、故障を無くすために必要な考え方や取り組みを学ぶことができました。日常業務においても設備や品質に不具合があった際に意見を求められることが多いので、今回学んだことを生かして設備の故障低減や品質管理に取り組んでいきたいと思います。

2級

イヅミ工業株式会社

千頭 美徳 さん



やるからには満点を目標に学習をしてきたので、今回成績優秀者という成果が出せて、大変嬉しく思います。今後は学んだ知識をしっかりと職場で共有し、自社の自主保全活動に貢献していきたいと思います。

2級

イヅミ工業株式会社

前田 栄治 さん

このたびは、成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。受験するにあたりサポートしてくれた人達に感謝します。今後は、身につけた知識を知識のままで終わらせず、得た知識を活かし生産性の向上や、より良いモノづくりを目指したいと思います。

1級

株式会社エクセディ

橋田 尊己 さん

日々のささやかな学習が実を結んだことを嬉しく思うと共に、積み重ねの大切さを改めて感じました。学習した内容をそのまま現場で発揮するのは容易ではないと考えております。色を変えて「無理のない生きた活動」にできるよう、理解を深めていきたいと思います。

2級

NSKワーナー株式会社

磯部 広美 さん

成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。このような結果を残せたのは、上司、社内講習会の講師の指導と熱い情熱のおかげです。今後も引き続き、自部署内にて自主保全活動を推進し、生産性向上に努めていきます。また来年も1級の成績優秀者に選ばれるように頑張っていきます。

2級

熊野製罐株式会社

平野 瑞樹 さん

成績優秀者に選んでいただき、大変嬉しく思います。今回の試験を通じて、管理的な内容から実務に関することまで幅広い基礎知識を得られたので、今後はこの知識を基に実際の業務に活かして、自身のレベルアップを図りたいと思います。

1級

サントリー株式会社

山村 晴菜 さん

1級取得に向けて勉強したことで、幅広い保全の知識が身につきました。製造業に携わる従業員にとって、学んでおくべき内容を包括的に身につけることができるので、直接的な保全の部署でなくても、オペレーターや間接部門といった業種の方々にとっても役立つ資格だと思います。

2級

株式会社ジェイテクト

清水 稀琉 さん

受験勉強を始めてみると、今まで聞いたこともないような単語も多く、覚えるのも大変でしたが、何度も勉強するうちに少しずつ覚えることができ、結果を残すことができて良かったです。

1級

株式会社信越シリカ

笹川 義浩 さん

このたびは成績優秀者に選んでいただき、大変光栄に思います。会社に資格取得の奨励制度があり、最初は自己啓発のつもりで始めた勉強でしたが、保全の知識を通して自分の仕事に対する姿勢や考え方などを改めて見直す良い機会になりました。今後は学んだことを活かし、より効率的な操業を目指したいと思います。

1級

株式会社SUBARU

森内 一良 さん

自主保全士1級・2級共に成績優秀者として合格でき大変嬉しく思います。自主保全士1級・2級検定試験で学んだことを活かし、生産性向上や故障の未然防止につながる改善や効率化などの活動をメンバーと共に楽しく行っていきたいと考えています。

2級

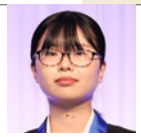
住友電工焼結合金株式会社

梅内 裕太 さん

このたびは成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。また今回勉強した努力がこのような形で報われ、今後の励みにもなりました。今回勉強して覚えた知識は、これからの業務でしっかりと活用できるようにしていきたいと思います。改善活動や設備故障の未然防止等様々な業務に役立てて、より良いモノづくりを目指していきます。今後はぜひ1級にも挑戦し、再び成績優秀者に選出していただけるように努力してまいります。

2級

大日精化工業株式会社



平野 花帆 さん

受験勉強を始めた際には知らない内容が多く合格できるか不安でしたが、今回このような名誉ある表彰をいただくことができたことを大変光栄に思います。今回学んだ知識を、職場の自主保全活動を通して活かしていけるよう努力していきたいと思います。

1級

太平洋工業株式会社

岩渕 拓州 さん

このたびは、表彰していただきましたことを大変嬉しく思います。学習で得た知識や考え方などを日々の業務に活かし、スキルアップと現場の見直しを図っていきます。また、繰り返し学ぶことで職場のメンバーと共有し、5S活動や小さな現場改善を継続して行い、安心安全、生産効率の向上につなげていきます。

2級

玉野化成株式会社

山脇 望恵 さん

成績優秀者として表彰していただき、大変嬉しく光栄に思います。日頃扱う設備の故障による生産性低下を防ぎたいと考え、保全に関する学習に取り組みました。故障のメカニズムや自主保全の重要性を学び、小さな変化にも気づくなど意識改革につながりました。学んだことを活かし、設備の安定稼働と生産性向上に貢献していきます。

2級

株式会社千代田製作所

大澤 和樹 さん

無事に自主保全士検定試験に合格することができました。かつ、このような成績優秀者に選んでいただき、大変嬉しく、また光栄に感じています。今回の成績を出せたのも、職場の上司、また支援いただいた方たちの、多大なるご協力があっての成果ですので感謝しております。今後も「自分たちの設備は自分たちで守る」を基本として、停まらない製造ラインを目指していきたいと思います。今回の学習で身につけた知識を自職場のメンバーにも教えて、全員の自主保全能力の向上を図り、一人ひとりがレベルアップすることで、安全で良い品質のモノを、早く正確に安定して作れる職場を実現していきたいと思います。

2級

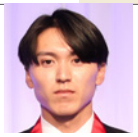
株式会社千代田製作所

三浦 真澄 さん

成績優秀者として選出していただき、大変嬉しく思います。このような結果をいただけたのは、社内での勉強会で他の受験者と共に、分からないことはお互いに教え合いながら理解の幅を広げられたことも大きいと感じています。今回学んだ知識を活かし、自ら実践し、周りを巻き込み、職場へ広げていけるよう一層努力していきます。

1級

株式会社トクヤマ



森中 康介 さん

このような賞をいただき大変嬉しく思います。今回の検定で得た知識を元に、自職場に貢献できるよう努めます。

1級

トヨタ自動車株式会社

石原 修 さん

昨年の２級に続き１級でも合格することができました。改めて自主保全について学習することで、さらに深く理解することができたように思います。受験を通して得られた知識を活かし、社内外との交流を進め、自主保全の更なる普及・促進に努めます。

2級

トヨタ自動車株式会社

大崎 慶太 さん

このたびは成績優秀者に選出していただき大変光栄です。受験勉強をしていく中で多くの学びを得ることができました。今回、学んだ知識を職場で活かし、よりレベルの高い生産性の向上や高品質なモノづくりに貢献していきたいと思います。今後も自主保全士が活躍する職場、工程、設備、モノづくりを目指して頑張ります。

1級

トヨタ自動車株式会社

田中 正和 さん

この賞を目標にしていたので、受賞でき大変嬉しく思います。コツコツとテキストと向き合い納得するまで勉強しました。実技の学習では、普段の自身の考動と照らし合わせて、見る目の弱さを感じる点も実感しました。身につけた知識を活かせられる様に、仲間と共に自主保全力の高い職場を創れる人材になりたいと思います。

2級

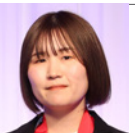
トヨタ自動車株式会社

前田 響 さん

受験を決めた当初は保全に関する知識がほとんどありませんでしたが、今回成績優秀者として選出していただき、自身の知識が向上したことを実感しています。自職場で管理している設備の保全が自身で行えるよう、今後は1級取得を目指すと共に、学んだ内容を業務で活かし“もっといいクルマづくり”に貢献します。

1級

株式会社豊田自動織機

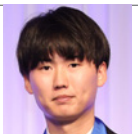


髙橋 加那子 さん

現場支援業務を担当する中で、もっと現場の仕事に寄り添った支援がしたいという思いから受験をしました。勉強を進めていく中で知らないことも多く、合格できるか不安もありましたが、家族・職場の協力もあり今回このような賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。今後は、この学びを活かし、一層努力してまいります。

2級

トヨタ紡織株式会社



加藤 潤 さん

成績優秀者に選出され、大変光栄です。今回の試験を受けるにあたり、自主保全の心得を学ぶことができました。

2級

トヨタ紡織株式会社

川本 誠 さん

社内勉強会や自主学習の成果がこのような結果に結びつき、大変嬉しく思います。生産技術の立場から自主保全の考え方や必要性を学ぶことができたので、今後はこの知識を活かして、より良い設備を製造・保全へ提供できるように努力していきたいと思います

2級

トヨタ紡織株式会社

原田 篤人 さん

業務で設備を扱うことも多く、自主保全士の知識は、私にとって今一番必要なものと思い、取り組みました。無事合格し、成績優秀者に選んでいただけたことを大変光栄に思います。学んだ知識を活かし、更なる良いモノづくりの向上を目指します。

1級

トヨタ紡織株式会社

若尾 浩章 さん

成績優秀者に選出していただけたことは大変光栄であり、今後の励みになります。この自主保全士検定で学んだ知識や考え方は、職場だけでなく、自宅や自動車の取り扱いなど私生活にも活かすことができ、自分の人生も豊かになったと感じています。今後は更なるスキルアップを目指すと共に、後進の育成にも力を入れていきます。

2級

ナブテスコ株式会社

川崎 耀大 さん

成績優秀者として表彰していただき、大変嬉しく思います。今回の受験を通して自主保全に関する知識を習得することができたので、実務への導入を積極的に行っていこうと思います。また今後は学んだことを部署内で展開し、他者と協力した職場の改善活動に努めます。

2級

日産自動車株式会社

阿部 恭之 さん

このたびはこのような賞をいただき大変嬉しく思います。保全の知識ゼロからの資格勉強だったのでとても大変でしたが、無事合格できたことで、一安心しました。これからはこの知識を活かして「自分の設備は自分で守る」を誓い、予防保全や日常点検に取り組みます。最後に資格取得にあたり、協力して下さった職場の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

1級

日産自動車株式会社

伊藤 剛 さん

このたびは自主保全士2級に続いて、1級でも成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。今後は学んだことを単なる知識として終わらせるのではなく、日々の業務に取り入れ活かしていくとともに、職場の仲間にも伝達教育を行い、設備に強いオペレーター集団を目指して自分自身も精進していきます。

1級

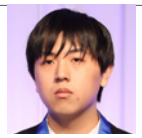
日産自動車株式会社

栗田 智 さん

このたびは栄誉ある賞をいただき大変光栄に思います。受験にあたってサポート体制を整えてくれた方々にも感謝致します。無事に合格できてホッとしております。今後は試験勉強で学んだ知識を活かして、自主保全活動の継続と後輩メンバーの育成、そして現場の生産性向上へとつなげていきたいと思います。

2級

日産自動車株式会社



比留川 海都 さん

このたび、成績優秀者に選出され大変嬉しく思います。自主保全推進員を任命されましたがTPMについての知識が足らず、他工場へ出向き改善のきっかけを勉強してきました。無事合格できたのは日々サポートしてくださった職場の方々のおかげです。今後は学んだ知識を活かし、生産性の向上、より良い品質のモノづくりを目指します。

2級

日産自動車株式会社

福田 秀明 さん

試験勉強を通じて、多くの知識と経験を得ることができました。合格の知らせを受けたときは、努力が実を結んだと実感し、安堵の気持ちと、また支援いただいた職場のメンバーには感謝の気持ちしかありません。今後は学んだことを職場で活かし、チームと共により良い成果を生み出すために邁進していきます。

1級

日産自動車九州株式会社

長濱 尚昌 さん

社を挙げて自主保全士の養成に取り組む中で、今回成績優秀者として表彰していただけた事は大変名誉であり、サポートしていただいた方々への恩返しになりました。得た知識を最大限に活かし、今後の自主保全活動の計画立案から実践に至るまで、中心的な役割を果たすと共に伝達教育を通じて共有化し、設備に強いオペレーター集団の構築を目指します。

1級

日本ゼオン株式会社

末坂 芳成 さん

職場で自主保全活動を推進する立場になったことを機に、基礎から学び直すことを目的として受験しました。自主保全活動の重要性を再認識すると共に、新たな知識も習得することができました。今後は製造現場の更なる安定化と効率化を図り、持続可能な生産体制の構築を目指していきたいと思います。

2級

富士フイルムマニュファクチャリング株式会社

遠藤 裕介 さん

まさか自分が成績優秀者に選ばれるとは思っていなかったため、大変嬉しく思います。自社でもTPM活動に力を入れているため、今回学んだ事を自分だけのものにせずメンバー全員と共有し、全員参加の活動でより良い職場になるように精進してまいります。

1級

富士フイルムマニュファクチャリング株式会社

木村 聡志 さん

成績優秀者に選出していただき誠にありがとうございます。日々の業務で得た知識や経験を活かし、この様な成果を挙げられた事を大変嬉しく感じております。また、今回の勉強を通じて生産保全に役立つ新たな知識を身につけることができました。この知識を職場内で共有し、更なる現場力向上に努めてまいります。

1級

三菱重工業株式会社

金井 良太 さん

改善活動でやっていることの意味や必要性等を深く学ぶことができ、今まで以上に意識して改善活動に取り組むことができています。検定に挑戦し、合格して良かったと実感しています。今後は、得た知識の還元と資格取得に挑戦する人のサポートをして、意識の高い職場をつくり、品質の高いモノづくりに貢献していきます。

2級

矢崎エナジーシステム株式会社

外山 光則 さん

このたびは、優秀者としての選出、ありがとうございます。試験勉強の途中から1級の過去問題に挑戦したことが良い結果を招いた気がします。また、機械保全の知識面ではいささかレベルアップできたとは思います。ですが、実践となると別物だと考えておりますので、今後は手と体を油で汚しながら、更なるレベルアップに励みます。

1級

個人

池部 弘二郎 さん

成績優秀者に選ばれ大変嬉しく思います。試験勉強を通して普段の業務では学べない自主保全に対する考え方や活動の進め方を学ぶことができました。今回の経験を活かして、自分で使う設備は自分で守る気持ちを強く持ち、日々の保全活動に努めていきたいです。

2級

個人

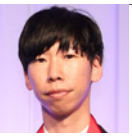
阪口 諒 さん

自主保全士2級に合格し、成績優秀者として認められたことを光栄に思います。受験勉強を通して設備保全に対する考え方や取り組み方を学び、保全への意識を高めることができたと感じています。本経験を活かし、高品質で設備故障の少ない製造ラインの構築に尽力するとともに、引き続き設備保全に関する知識と技術の向上に努めます。

1級

個人

坂田 隼哉 さん



生産技術として働く自分の腕試しのつもりで受験しましたが、まさか成績優秀者に選ばれるとは思ってもみませんでした。名誉ある成績優秀者の受賞に自信を持って今後の業務に励むと共に、社内でも自主保全活動を広めて生産性向上に努めていきたいです。

2級

個人

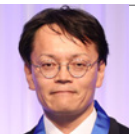
坂本 直紀 さん

合格することを目標にして取り組みましたが、今回成績優秀者として選出いただき大変嬉しく思います。今回学習した知識を現場で実践し、自主保全の考え方を部署内で定着させることを念頭に入れ、今後の業務に努めていきたいと思います。

2級

個人

髙橋 哲也 さん



このたびは会社の上長の勧めで受験しましたが、良い成績が残せて嬉しく思います。私たちが運転しているプラントは古く、毎日のように故障が発生しますので、身につけた知識を活かし、故障の低減、未然防止に努めていきたいと思います。

1級

個人

鷹林 謙介 さん

このたびは、このような名誉ある賞をたまわり、誠に光栄に存じます。私は研究開発支援に従事しておりますが、高い競争力を維持するため、生産設備同様に研究試験設備の故障ゼロを目指した予防保全が要求されます。自主保全活動も自身の重要なミッションであることを肝に銘じ、設備に強い職場づくりに貢献してまいります。

1級

個人

田中 友朗 さん

このたびは成績優秀者として選出していただいたこと大変嬉しく思います。自身のスキルアップを目標に勉強していたので大きな自信になりました。今後は学んだ知識を現場に活かして、より良いモノづくりができるよう頑張っていきたいと思います。

2級

個人

西本 勝利 さん

成績優秀者として表彰していただき大変光栄ですが、今回の試験は満点合格を目指していたので、少し悔いの残る結果になりました。今後の課題ですが、合格して終わりではなくもっと知識を深めて、職場で活かしていきたいと思っております。

1級

個人

水野 巧也 さん

成績優秀者という名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。これに満足せず今回学んだ知識を職場で十二分に活かし、生産性向上につなげていこうと思います。

24年以上の試験実績 累計約38万人の利用者数

資格認定 “設備に強いオペレーター”

自主保全士通信教育

次世代に対応できる“設備に強いオペレーター”

4つの能力

- 異常発見能力
- 処置・回復能力
- 条件設定能力
- 維持管理能力

設備に強いオペレーター

5つの知識・技能

- 生産の基本
- 生産効率化とロスの構造
- 設備の日常保全（自主保全活動）
- 改善・解析の知識
- 設備保全の基礎

設備が変わる

不具合の発生しない
きれいな設備になります。

人が変わる

オペレーター1人ひとりの
考え方や意識・行動が
変わります。

現場が変わる

生産性の高い最適な
職場体質に変わります。

＼＼ 多くの企業で活用されている資格です ／／

通信教育で、いつでも、じっくり学び、確かなスキルに

添削レポート5単位分修了後に **認定試験** にチャレンジ！

受講開始後、最短4カ月で **「自主保全士」** 認定が目指せる！

在宅勤務の方にもオススメです

通信教育でも資格取得!!

※開講月や認定試験実施月によって、資格認定までの期間が異なります。

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

◀ 企業の活用事例や
各種役立つ情報掲載中
https://www.jishuhozenshi.jp/

「自主保全活動」とは、オペレーター1人ひとりが自分の使っている設備を管理でき、設備の正しい姿を維持する活動です。そのためには、自分の設備は自分で守る、いわゆる『**設備に強いオペレーター**』を現場に浸透させる必要があります。オペレーターは、オペレーションのみではなく、保全の知識を身につけることで、迅速な異常発見や簡単な修理・改善ができるようになり、重大な故障を未然に防ぐことができるようになります。この能力を身につける効率的な手段が、「**自主保全士認定制度**」です。

「自主保全士」が「現場」を変える

「設備」が変わる

自主保全士取得のメリットは、設備の専門家に任せず自分の設備は自分がしっかり守る意識が定着したこと。

その結果、設備がいかに止まらないようにするか、故障の未然防止はどのようにすれば良いかという意識が芽生えた。その結果、不具合の発生しないきれいな設備になりました。

（自動車系：T社）

「人」が変わる

当初の自主保全士取得は、製造部門のみだったが、技術部門やアルバイトにも受験対象を拡大。自主保全士の有資格者が増加するにつれて、一人ひとりの専門用語への理解が深まり、技術的な専門用語を含めた会話ができるように。部門を跨いだ専門用語の共通化によりコミュニケーションアップ！

（非鉄金属系：R社）

▶ 通信教育のコース概要

受験資格

1級 ▶ 実務経験4年以上
2級 ▶ 実務経験0年（不要）

コースの詳細については、公式サイトをご確認ください。

スケジュール

レポート（5単位分）

申込期限 ▶ 開講前月12日まで
開講日 ▶ 毎月1日
受講期間 ▶ 5ヵ月間（在籍：8ヵ月）

●教材（テキスト5冊）は、開講日直前に送付します。

認定試験（4回／年）

実施月 ▶ 3・6・9・12月

●受験には、各実施月2ヵ月前の末日までにレポート添削が修了する必要があります。
●認定試験結果が不合格の場合、1回に限り、次回の認定試験を追試験として受験可能です。

認定基準

全5単位の添削レポートを修了し、かつ認定試験にて合格

●添削レポート、認定試験には、各々合格点が設定

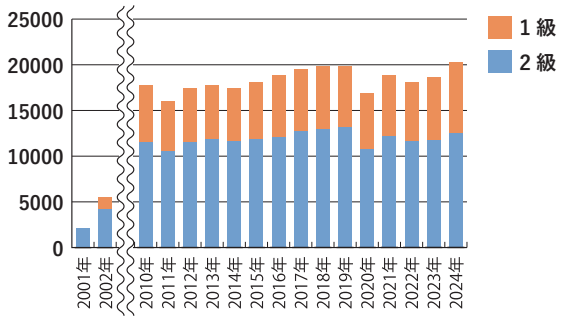
受講費（税込）

1級 ▶ 一般 ¥36,300円（税込） 特別 ¥33,000円（税込）
2級 ▶ 一般 ¥31,900円（税込） 特別 ¥28,600円（税込）

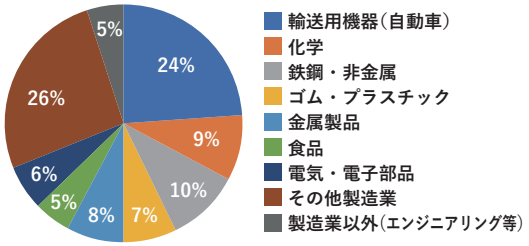
●特別受講料は、1回の受講申込で10名以上（1,2級あわせて）の申込みの場合、または公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の会員に限り適用されます。

▶ 20年以上の試験開催と幅広い製造業での利用実績

▶ 2001年から現在に至る24年の試験実績
▶ 累計利用者 約38万人の利用実績
▶ 毎年450企業・団体での活用実績
▶ 累計認定者数23万人以上の製造現場への輩出実績



級別申請者の推移（検定試験、オンライン試験、通信教育の合計）



団体申込の業種別傾向

通信教育のお申込みは、公式サイトから

https://www.jishuhozenshi.jp/

お問い合わせの際は、公式サイト内のお問い合わせフォームから

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

ACTIVE 2025年5月発行
発行・編集　公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-3 神保町SFIIIビル5階
TEL.03-6865-6081　　中部事務所　TEL.052-561-5634
https://www.jishuhozenshi.jp
E-Mail : jishuhozenshi@jipm.or.jp